

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果
	—	—	—	—	—	—	—	—

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
退院支援担当者を配置している病院数	R2 12.7か所	—	—	R2 12.7か所	—

中間アウトカム

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
退院支援（退院調整）を受けた患者数	R3 56,538人	R2 50,099人	R3 56,538人	R4 58,953人	↑ 改善
介護支援連携指導を受けた患者数	R3 845人	R2 829人	R3 845人	R4 919人	↑ 改善
退院時共同指導を受けた患者数	R3 252人	R2 193人	R3 252人	R4 275人	↑ 改善
退院支援計画書を作成した患者数	R3 1,945人	—	—	R3 1,945人	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・中間アウトカムの退院時共同指導を受けた患者数、退院支援計画書を作成した患者数は、第8次計画から追加された指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書		A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは、全てにおいて増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・退院担当者配置の指標は3年おきの更新となっているため、指標の検討を要す。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・退院支援担当者の配置は、病院機能によるところが大きい。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
入退院支援連携デザイン事業	退院支援担当者を配置し、 退院支援ができる体制を整備	毎年度	県 （県医療ソーシャルワーカー協会）	医療政策課	4,751	5,000	・多職種向けオンライン研修（病院・施設での身寄りのない人の支援体制づくり）：1回175人参加 （参考） ・啓発用漫画の作成・配布：500部 ・啓発用動画のYoutube掲載：視聴回数339回（R6.10.31時点）
各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	関連研修：1回
各種研修の実施		毎年度	関係団体（医師会・看護協会等）	—	—	—	関連研修：18回

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
退院支援担当者に対する 研修会開催回数	R4 11回	R3 11回	R4 11回	R5 20回	 改善

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
退院支援（退院調整）を受けた患者数	R3 56,538人	R2 50,099人	R3 56,538人	R4 58,953人	 改善
介護支援連携指導を受けた患者数	R3 845人	R2 829人	R3 845人	R4 919人	 改善
退院時共同指導を受けた患者数	R3 252人	R2 193人	R3 252人	R4 275人	 改善
退院支援計画書を作成した患者数	R3 1,945人	—	—	R3 1,945人	—

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・予定を上回る研修が実施された。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・全体の研修回数は、20回となっている。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・研修の実施は成功している。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは全てにおいて増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行や病床ひっ迫による退院調整強化の取組の影響も一部あると推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果
	入退院支援連携デザイン事業	在宅医療・介護連携に必要な多職種が対象となる研修を実施	毎年度	県 （県医療ソーシャルワーカー協会）	医療政策課	4,751	5,000	・多職種向けオンライン研修（病院・施設での身寄りのない人の支援体制づくり）：1回175人参加
	在宅・介護施設等療養者への継続的な在宅歯科診療の提供のための他職種連携事業		毎年度	県 （県歯科医師会）	医療政策課	2,180	2,400	・多職種向けハイブリッド研修（訪問歯科診療推進フォーラム）：1回117名参加
	各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	関連研修：3回
	各種研修の実施		毎年度	関係団体（医師会・看護協会等）	—	—	—	関連研修：47回

効果	個別施策（アウトプット）						中間アウトカム					
		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
	医療・介護の多職種による研修会の開催回数	R4 23回	R3 25回	R4 23回	R5 51回	改善	訪問診療を受けた患者数	R3 15,037人	R2 13,186人	R3 15,037人	R4 17,552人	改善
	介護支援専門員への在宅医療研修・働きかけ	R4 9回	R3 7回	R4 9回	R5 1回	後退	訪問看護利用者数（医療保険）	R3 217人	R2 208人	R3 217人	R4 163人	後退
							訪問看護利用者数（介護保険）	R3 15,105人	R2 13,551人	R3 15,105人	R4 17,594人	改善
							歯科衛生士を帯同した訪問歯科診療を受けた患者数	R3 7,680人	R2 7,138人	R3 7,680人	R4 7,943人	改善
							訪問口腔衛生指導を受けた患者数	R3 4,671人	R2 4,274人	R3 4,671人	R4 4,606人	横ばい
							居宅療養管理指導を受けた患者数（介護保険）	R3 9,544人	R2 7,904人	R3 9,544人	R4 11,248人	改善
							訪問薬剤管理指導を受けた患者数	R3 944人	R2 594人	R3 944人	R4 823人	横ばい
							往診を受けた患者数	R3 3,037人 〔4,352回〕	R2 2,560人 〔3,708回〕	R3 3,037人 〔4,352回〕	R4 3,796人 〔5,497回〕	改善
							夜間・休日に往診を受けた患者数	R3 543人 〔550回〕	—	—	R3 543人 〔550回〕	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いのか	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・施策は実施されたが、介護支援専門員向けの研修は減少している。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・他職種研修は51回、介護支援専門員向けの研修は1回実施している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・概ね順調だが、介護支援専門員向けは減少した。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・多くの指標で増加しているが、全国との差は大きい。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行の影響があると推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
	訪問看護支援事業	訪問看護師を育成する研修を実施	毎年度	県 （県看護協会）	医療政策課	15,252 のうち数	16,773 のうち数	・訪問看護師の育成のための各種研修：計9回217人参加
	各種研修の実施		毎年度	市町村	—	—	—	・関連研修：1回

効果	個別施策（アウトプット）						中間アウトカム					
		基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果		基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
	訪問看護師の育成のための実習・研修会開催回数	R4 17回	R3 13回	R4 17回	R5 10回	→ 後退	訪問診療を受けた患者数	R3 15,037人	R2 13,186人	R3 15,037人	R4 17,552人	↑ 改善
							訪問看護利用者数（医療保険）	R3 217人	R2 208人	R3 217人	R4 163人	↓ 後退
							訪問看護利用者数（介護保険）	R3 15,105人	R2 13,551人	R3 15,105人	R4 17,594人	↑ 改善
							歯科衛生士を帯同した訪問 歯科診療を受けた患者数	R3 7,680人	R2 7,138人	R3 7,680人	R4 7,943人	↑ 改善
							訪問口腔衛生指導を受け た患者数	R3 4,671人	R2 4,274人	R3 4,671人	R4 4,606人	→ 横ばい
							居宅療養管理指導を受け た患者数（介護保険）	R3 9,544人	R2 7,904人	R3 9,544人	R4 11,248人	↑ 改善
							訪問薬剤管理指導を受け た患者数	R3 944人	R2 594人	R3 944人	R4 823人	→ 横ばい
							往診を受けた患者数	R3 3,037人 〔4,352回〕	R2 2,560人 〔3,708回〕	R3 3,037人 〔4,352回〕	R4 3,796人 〔5,497回〕	↑ 改善
							夜間・休日に往診を受け た患者数	R3 543人 〔550回〕	—	—	R3 543人 〔550回〕	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いのか	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・訪問看護師の育成のための研修は減少した。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・訪問看護師の育成のための研修は、10回実施している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・個々の研修の質は、問題ないと考えている。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・訪問看護師に関する指標のうち、訪問看護利用者（介護保険）は増加している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・訪問看護師については関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行の影響があると推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
訪問看護総合支援センター事業	訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	県 （県看護協会）	保健医療 総務課	15,252	16,773	・コールセンターの運営：相談331件 ・訪看育成の各種研修：計217人参加 ・HP「訪問ネット沖縄」による普及啓発：30,607アクセス
離島・へき地訪問看護提供体制強化・育成事業	離島・へき地の訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	訪問看護事業者	保健医療 総務課	28	800	補助金：1件28,000円
在宅・介護施設等療養者への継続的な在宅歯科診療の提供のための他職種連携事業	在宅歯科診療の拡大を図る取組	毎年度	県 （県歯科医師会）	医療政策課	2,180	2,400	・多職種向けハイブリッド研修（訪問歯科診療推進フォーラム）：1回117名参加
訪問薬剤管理指導推進事業	訪問薬剤管理指導業務を行う薬局の増加を図る取組	毎年度	県 （県薬剤師会）	衛生薬務課	1,028	1,028	・訪問薬剤管理指導を実施している薬局への見学及び同行研修：10回 ・多職種連携会議の開催：1回 ・座学研修会等：5回 ・無菌調剤室の利用に関する研修会：1回

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
訪問診療を実施している診療所数	R3 33.5か所	R2 31.4か所	R3 33.5か所	R4 34.7か所	↑ 改善
訪問診療を実施している病院数	R3 7.2か所	R2 8.1か所	R3 7.2か所	R4 8.4か所	↑ 改善
訪問看護事業所数（） 内は実数	R4 57.9か所 〔192か所〕	R3 48.0か所 〔159か所〕	R4 57.9か所 〔192か所〕	R5 67.6か所 〔224か所〕	↑ 改善
訪問看護ステーションの看護職数	R3 248人	R2 180.4人	R3 248人	R4 297.5人	↑ 改善
歯科訪問診療を実施している診療所数	R5 90.2か所	R4 88.4か所	R5 90.2か所	R6 90.5か所	↑ 改善
訪問薬剤管理指導を実施している薬局数	R3 23.8か所	—	R3 23.8か所	R4 26.6か所	↑ 改善
訪問口腔衛生指導を実施している医療機関数	R3 8.1か所	R2 7.5か所	R3 8.1か所	R4 8.1か所	→ 横ばい

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
訪問診療を受けた患者数	R3 15,037人	R2 13,186人	R3 15,037人	R4 17,552人	↑ 改善
訪問看護利用者数（医療保険）	R3 217人	R2 208人	R3 217人	R4 163人	↓ 後退
訪問看護利用者数（介護保険）	R3 15,105人	R2 13,551人	R3 15,105人	R4 17,594人	↑ 改善
歯科衛生士を帯同した訪問歯科診療を受けた患者数	R3 7,680人	R2 7,138人	R3 7,680人	R4 7,943人	↑ 改善
訪問口腔衛生指導を受けた患者数	R3 4,671人	R2 4,274人	R3 4,671人	R4 4,606人	→ 横ばい
居宅療養管理指導を受けた患者数（介護保険）	R3 9,544人	R2 7,904人	R3 9,544人	R4 11,248人	↑ 改善
訪問薬剤管理指導を受けた患者数	R3 944人	R2 594人	R3 944人	R4 823人	→ 横ばい
往診を受けた患者数	R3 3,037人 〔4,352回〕	R2 2,560人 〔3,708回〕	R3 3,037人 〔4,352回〕	R4 3,796人 〔5,497回〕	↑ 改善
夜間・休日に往診を受けた患者数	R3 543人 〔550回〕	—	—	R3 543人 〔550回〕	—

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いかな	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・指標の多くは第7次計画から継続している指標であるが、看護職数については第8次計画で追加された。	☒ A 十分に満たされている ☐ B かなり満たされている ☐ C ある程度満たされていない ☐ D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	☒ A 予定通り実行されている ☐ B ほぼ実行されている ☐ C 一部実施されている ☐ D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・訪問看護、訪問歯科診療、訪問薬剤管理の推進に係る取組は実施しているが、在宅医師の増加等の取組は実施されていない。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・日常の在宅医療を提供する体制は着実に向上しているが、特に訪問診療を実施している診療所が全国に比べて少ない。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・概ね順調である。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・訪問看護利用者数（医療保険）に後退がみられる。 ・訪問口腔衛生指導を受けた患者数、訪問薬剤管理指導を受けた患者数が伸び悩んでいる。 ・また、全体的に全国と比較して少ない数に留まっている。	☒ A とても効果を出している ☐ B 効果を出している ☐ C あまり効果を出していない ☐ D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。 ・往診に関する中間アウトカムは、別の施策（個別施策6）によるものである。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行の影響があると推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
在宅医療介護連携 支援事業	往診・夜間看取りの代診医 派遣体制の構築への支援	毎年度	県 （県医師会）	医療政策課	15,969 のうち数	20,000 のうち数	・往診・夜間看取りの代診医派遣実証：参加医療機関11、派遣依頼21件（対応時間累計46日8時間） ・説明会：3回135人参加 ・医療機関向け説明会（代診医師派遣実証への登録募集）：21医療機関参加
訪問看護総合支援 センター事業	訪問看護を提供する体制の 整備	毎年度	県 （県看護協会）	保健医療 総務課	15,252 のうち数	16,733 のうち数	・コールセンターの運営：相談331件 ・管理者向け研修：4回57人参加

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
往診を実施している診療 所数	R3 41.0か所	R2 38.6か所	R3 39.5か所	R4 30.5か所	↓ 後退
往診を実施している病院 数	R3 10.9か所	R2 7.8か所	R3 7.2か所	R4 8.1か所	↑ 改善

医療計画作成支援データブックの仕様変更により、マスク処理の市町村が増えたため、診療所・病院を別に集計すると、値が低くなっている。（診療所・病院の計は、56.4か所）

中間アウトカム

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
訪問診療を受けた患者数	R3 15,037人	R2 13,186人	R3 15,037人	R4 17,552人	↑ 改善
訪問看護利用者数（医療 保険）	R3 217人	R2 208人	R3 217人	R4 163人	↓ 後退
訪問看護利用者数（介護 保険）	R3 15,105人	R2 13,551人	R3 15,105人	R4 17,594人	↑ 改善
歯科衛生士を帯同した訪問 歯科診療を受けた患者数	R3 7,680人	R2 7,138人	R3 7,680人	R4 7,943人	↑ 改善
訪問口腔衛生指導を受け た患者数	R3 4,671人	R2 4,274人	R3 4,671人	R4 4,606人	→ 横ばい
居宅療養管理指導を受け た患者数（介護保険）	R3 9,544人	R2 7,904人	R3 9,544人	R4 11,248人	↑ 改善
訪問薬剤管理指導を受け た患者数	R3 944人	R2 594人	R3 944人	R4 823人	→ 横ばい
往診を受けた患者数	R3 3,037人 〔4,352回〕	R2 2,560人 〔3,708回〕	R3 3,037人 〔4,352回〕	R4 3,796人 〔5,497回〕	↑ 改善
夜間・休日に往診を受け た患者数	R3 543人 〔550回〕	—	—	R3 543人 〔550回〕	—

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いのか	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・指標の多くは第7次計画から継続している指標であるが、訪問薬剤管理指導を受けた患者数、夜間休日に往診を受けた患者数については、第8次計画で追加された。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B まぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・往診を実施している診療所数は減少しているが、データ出典（医療計画作成支援データブック）の表現の変更のためである。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・往診を実施している診療所数は、全国との差が大きい。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・往診を受けた患者数は、目標を上回って増加しているが、全国との差は大きい。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・往診に関する指標については関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行の影響があると推察される。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
	在宅医療介護連携支援事業	往診・夜間看取りの代診医派遣体制の構築への支援	毎年度	県 （県医師会）	医療政策課	15,969 のうち数	20,000 のうち数	・往診・夜間看取りの代診医派遣実証：参加医療機関11、派遣依頼21件（対応時間累計46日8時間） ・説明会：3回135人参加 ・医療機関向け説明会（代診医師派遣実証への登録募集）：21医療機関参加
	訪問看護総合支援センター事業	訪問看護を提供する体制の整備	毎年度	県 （県看護協会）	保健医療総務課	15,633 のうち数	16,733 のうち数	・コールセンターの運営：相談331件 ・訪看育成の各種研修：計217人参加

効果	個別施策（アウトプット）						中間アウトカム					
		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果
	在宅看取り（ターミナルケア）を実施している診療所	R3 16か所	R2 14.2か所	R3 16か所	R4 16.9か所	↑ 改善	▶					
	在宅看取り（ターミナルケア）を実施している病院数	R3 1.2か所	R2 1.8か所	R3 1.2か所	R4 1.2か所	→ 横ばい		看取り数（死亡診断のみの場合を含む）	R3 560人	R2 386人	R3 560人	R4 743人 ↑ 改善
	訪問看護事務所（機能強化型Ⅰ・Ⅱ）の事業所数	R2 8か所	R2 8か所	—	R4 10か所	↑ 改善						

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強い	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・在宅看取りを実施してる診療所は、増加している。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・概ね順調であるが、診療所数は全国との差が大きい。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・看取り数（死亡診断のみの場合を含む）は増加しており、目標及び全国平均を上回っている。	
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。	
総合評価	この施策をやり続けるべきか	外部要因の影響は	関係者ヒアリング	・コロナの流行の影響があると推察される。	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき
		上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での 主な意見		

個別施策

小児 1 成長過程を踏まえた小児在宅医療を実施する医療機関等の確保

作成様式 I 個別施策評価票

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和5年度 決算額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	実績・成果（アウトプット）
訪問看護総合支援 センター事業	訪問看護を提供する体制の 整備	毎年度	県 （県看護協会）	保健医療 総務課	15,252	16,773	・コールセンターの運営：相談331件 ・訪看育成の各種研修：計217人参加 ・HP「訪問ネット沖縄」による普及啓 発：30,607アクセス
離島・へき地訪問看 護提供体制強化・育 成事業	離島・へき地の訪問看護を 提供する体制の整備	毎年度	訪問介護事業所	保健医療 総務課	28	800	補助金：1件28,000円

効果

個別施策（アウトプット）

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
小児の訪問診療を実施し ている診療所数	R3 9か所	—	R2 6か所	R3 9か所	↑ 改善
小児の訪問診療を実施し ている病院数	R3 5か所	—	R3 5か所	R3 5か所	→ 横ばい
小児の訪問看護を実施し ている訪問看護ステーション数	R4 28か所	—	—	R4 28か所	—

中間アウトカム

	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果
小児の訪問診療を受けた 患者数	R3 89人	—	R3 89人	R4 98人	↑ 改善
小児の訪問看護利用者数	R3 1,659人	—	R3 1,659人	R4 1,969人	↑ 改善

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムとその指標は適切か 分野・中間アウトカムと施策のつながりは強いのか	・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルのつながりに整合性がある。 ・第7次計画から継続している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか 施策は実施されたか、進捗はどうか アウトプットが生まれているか 施策関係者はどう感じているか	予算（決算）書 関係者ヒアリング アウトプット指標 関係者ヒアリング	・取組記載の決算額のとおり ・小児の訪問診療を実施している診療所は増加している。	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は 外部要因の影響は	アウトカム指標 アウトカムとアウトプットの指標値 関係者ヒアリング	・中間アウトカムは、全てにおいて増加している。 ・関連があり、中間アウトカムの向上に寄与している。 ・コロナの流行の影響があると推察される。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での 主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき